

# なかの まつがおか

(題字 一樹 和彦)

第47号

3月25日  
2022年(令和4年)  
発行：松が丘片山町会  
編集：広報部

本紙は松が丘片山町会  
のホームページから  
ご覧いただけます。



仮装した子どもたちが大勢集まってくれて、松が丘北野神社の境内はハロウィンの楽しい雰囲気につつまれました。



中野ラバーズウォークとコラボしたハロウィンイベントを10月10日に開催しました。中野ラバーズウォークのキーワードを賞品係に示して、子どもも大人もお菓子を沢山受け取ってもらいました。

## 町会初のハロウィンイベント 中野ラバーズウォークとコラボ



ハロウィンイベントは町会で初めて開催するイベントでしたが、子ども達から「来年もあるの?」という声をいただきました。とても嬉しい声を頂きましたので、来年もハロウィン衣装をお披露目できる企画を用意したいと思います。

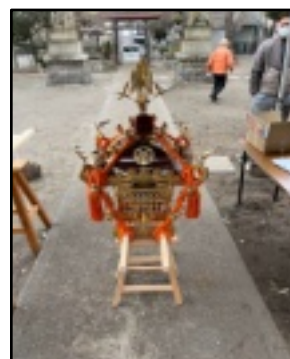
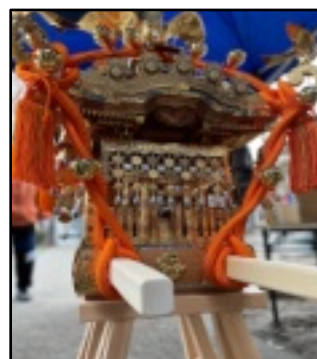


## こども神輿完成 お披露目を待つばかり!

待ちに待ったこども神輿が、ようやく完成し、2月13日に、浅草の宮本卯之助商店さんより納品されました。



納品に立ち合った町会役員、町内頭で宮本卯之助商店さんに教わりながら、お神輿の化粧飾りを整えました。まずは神輿に鳳凰を取付け駒札を正面に結び、飾り紐を飾りつけました。その飾り紐に鈴を立てて結わえ、さらに瓔珞をつけて、化粧飾りが完成です。



完成したこども神輿がこちらです。

皆様のおかげで大変立派な子ども神輿が完成しました。賛助頂いた皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。この子ども神輿が松が丘片山町会の未来を支える、子どもたちの地域活動への参加のきっかけとなることを願って大事に継承していこうと思います。また賛助頂いた皆様には、改めて町会ホームページや回覧などで、お披露目に関するご案内をさせて頂きます。今後とも松が丘片山町会と一緒に盛り上げて行きます。



### 新規町会員を募集中です

松が丘片山町会では住んでいる人々がお互いに挨拶し合う、安全で安心なまちづくりを目指して、さまざまな活動を行っています。現在町会に加入されているのは、松が丘地区3002世帯の40%弱です。ぜひ町会に加入して、松が丘片山ふるさとライフをお楽しみください。町会費はご家族単位で月額200円です。お問い合わせは町会長、山田晃 (TEL03-3386-2956) まで。



# 立川談之助師匠 落語会

演目 「選挙あれこれ」 「目薬」

立川談之助師匠による落語会が11月7日に開催されました。

今年もコロナの感染対策として、観客は来場時に手指の消毒、検温を行い、会場は窓を開けて換気の良い環境にし、来場人数に制限をかけて密を避けるようにして開催しました。

落語の前にはすっかり定番となった、自称台湾高雄市出身の謎のマジシャン、ミスターゴールドによる爆



笑手品ショーが披露されました。

立川談之助師匠は世情を風刺した愉快痛快な演目「選挙あれこれ」、菓の使い方を間違える夫婦のやりとりが面白い「目薬」を演じていただきました。

立川談志譲りのパンチのきいた語り口に、観客から笑い拍手が湧きました。



演目後には談之助師匠とのじゃんけん。勝負に勝った方に、サイン色紙や手拭



いがプレゼントされました。笑いは免疫力をあげるといいますが、来場された方々は大いに笑い、元気にお帰りになりました。

# 消火器点検と防災倉庫 資機材点検

3班に分かれ、不備がないかチェック

11月7日(日)午前9時から町内80カ所の街頭消火器点検を行いました。前日までは雨の心配もありましたが、当日はすっかりと晴れて絶好の点検日和。

1チーム4〜5人の編成で、松が丘1丁目、2丁目を3チームで巡回し、設置ボックスの外観異常や消火器の期限確認などを、約1時間かけて点検しました。土台がグラグラしているもの、箱がボロボロになったものがあり、区に修理や取り換えなどを依頼することにしました。

消火器点検の後は、興梠敬二副会長、八鍬防災部長、並木防火部長、青年部有志



で町内2カ所の防災倉庫の資機材点検を行いました。資機材の過不足を点検、中野区の担当部署に補充等をお願いする事にしました。

街頭消火器、防災倉庫資機材ともに町内の安心・安全を守る大事な設備です。これからも安心・安全な町づくりを努めます。

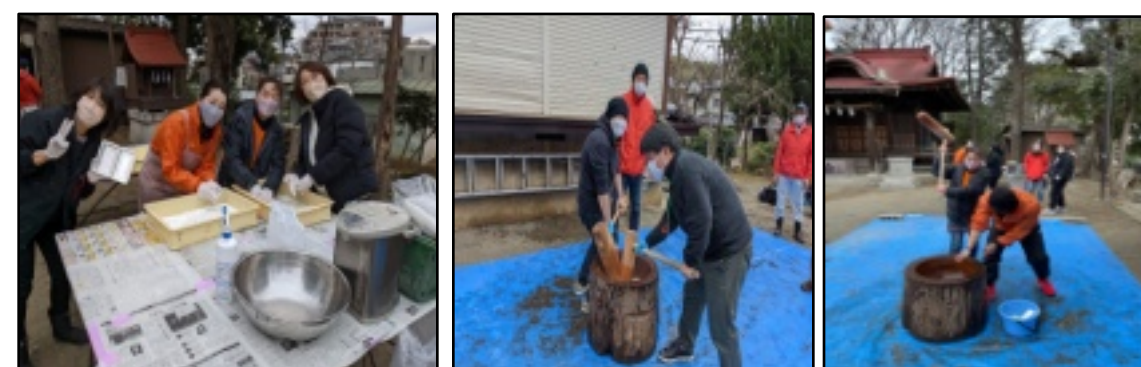
# 新年福祉輪投げ大会

新たな企画で伝統技術を繋げる

1月10日成人の日に、新年福祉輪投げ大会が行われました。

寒い日でしたが、なんとか天気も持ちこたえてくれました。感染防止の観点から、飲食を伴うイベントは中止となっていました。そんな状況下でも伝統行事や伝統技術を繋げられるように、一生懸命考え新たなイベントとして開催できました。

朝早くから輪投げ台の設置や景品用お餅つきの準備を行い万全の準備をして来場者の方々を迎え入れました。その結果、64組124名の方が参加してくださいました。



例年のように、飲食を伴うお餅つきを軸にしたイベントにはできませんでしたが、搗き立て餅は輪投げの景品として配られました。また食べることはしませんが、伝統技術を子どもたちに繋ぐために、子ども専用の餅つき体験コーナーを設置しました。稲は古くから神聖なものと考えられ、稲からとれるお米は生命力を強めるとされ、大切に扱われていました。その大切に扱われてきたお米から作る餅を食べることで、新しい命や力を授かる。本来ならそういった由来や意味も同時に伝えたい所です。

また初の試みでしたが輪投げも老若男女問わず、皆様に楽しんで頂けたようです。みんな素敵な景品を目指して真剣に輪投げをしてくださいました。

